

平成28年9月

# 久家圭太 学位論文審査要旨

主査 兼子 幸一  
副主査 黒崎 雅道  
同 小川 敏英

## 主論文

Correlation between neuromelanin-sensitive MR imaging and  $^{123}\text{I}$ -FP-CIT SPECT in patients with parkinsonism

(パーキンソン症候群患者における神経メラニンMRIと $^{123}\text{I}$ -FP-CIT SPECTの相関)

(著者：久家圭太、篠原祐樹、三好史倫、藤井進也、田邊芳雄、小川敏英)

平成28年 Neuroradiology 58巻 351頁～356頁

## 参考論文

1. CT angiography after carotid artery stenting: assessment of the utility of adaptive statistical iterative reconstruction and model-based iterative reconstruction

(頸動脈ステント留置術後のCT血管撮影：適応性を持つ統計学的逐次近似再構成法とモデルベース逐次近似再構成法の有用性の評価)

(著者：久家圭太、篠原祐樹、坂本誠、岩田直樹、岸本淳一、藤井進也、神納敏夫、渡辺高志、小川敏英)

平成26年 Neuroradiology 56巻 947頁～953頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、パーキンソン症候群患者を対象に、神経メラニンMRIと<sup>123</sup>I-FP-CIT SPECTとを対比検討したものである。その結果、神経メラニンMRIで示される中脳黒質ドパミン神経細胞の減少の程度と、<sup>123</sup>I-FP-CIT SPECTで示される黒質線条体ドパミン神経機能障害の程度には相関が認められることを初めて示し、パーキンソン症候群の診断における両者の相補性を明らかにした。本論文の内容は、神経メラニンMRIと<sup>123</sup>I-FP-CIT SPECTの臨床的有用性や相互関係について詳細に検討したものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。